

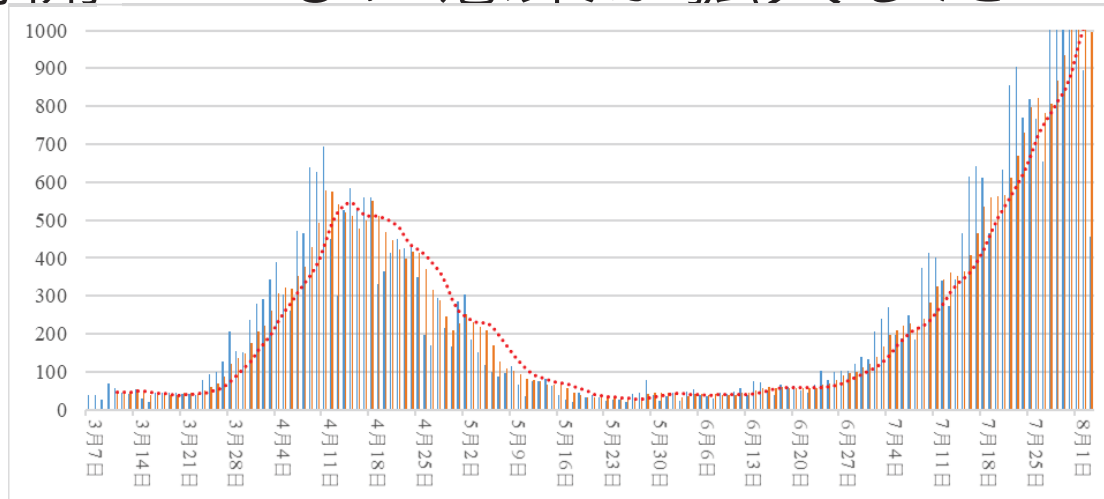
新型コロナウイルス感染症
流行シミュレーション作成事業
結果（2020年8月3日版）

群馬大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野

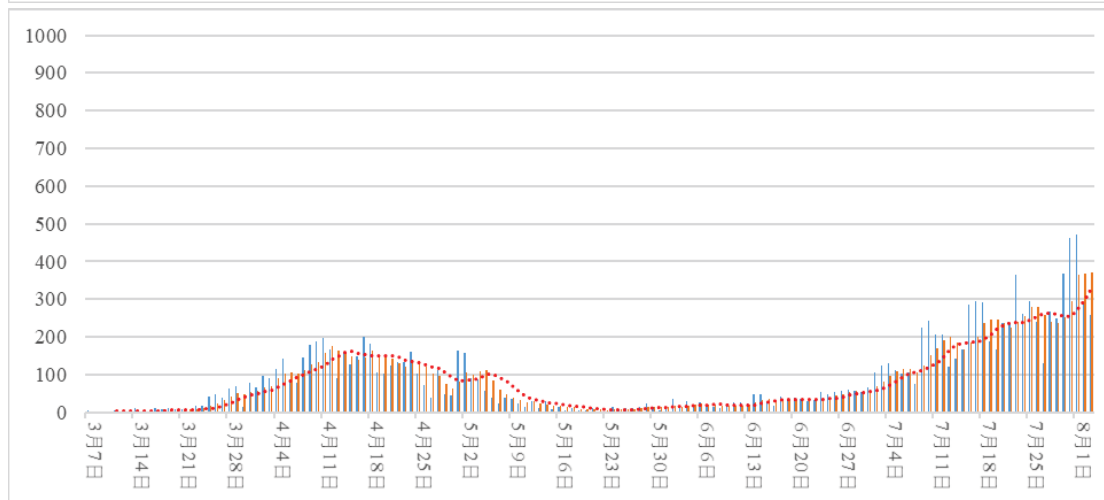
I 流行のリアルタイム評価

- 全国，東京，ともに6月後半から増加を認める。
- 活動再開とともに感染が拡大したと考えられる。

全国



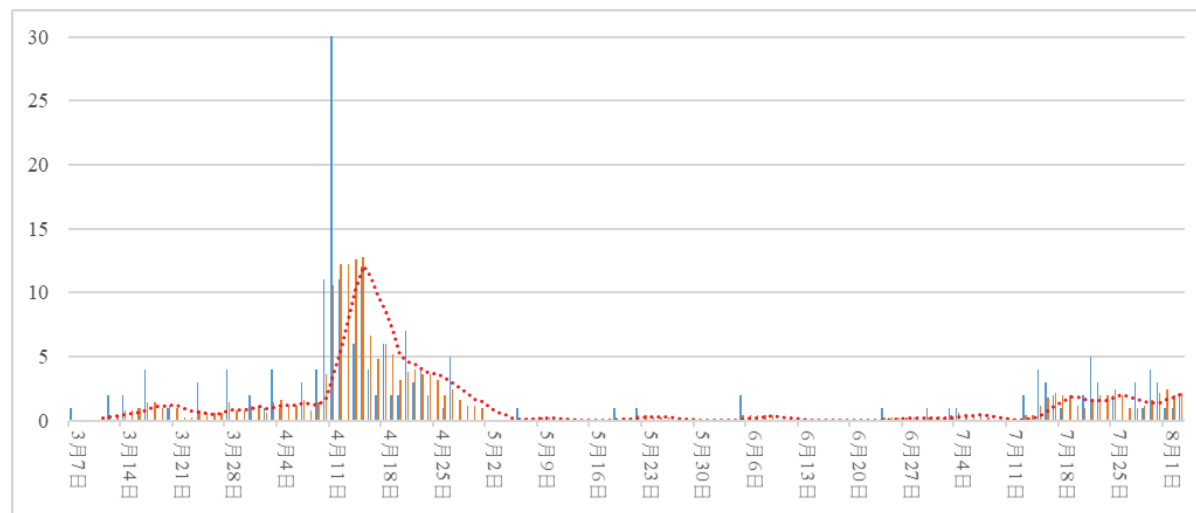
東京



青：報告者数
橙：移動平均（5日）
破線：橙の近似曲線

I 流行のリアルタイム評価

- 群馬県では，7月に入りPCR陽性者が連続して報告されている。
- 東京都など他県で感染して群馬県に持ち帰ったケースを認める。しかし，その持ち帰りのケースからの県内のクラスターは発生していない。



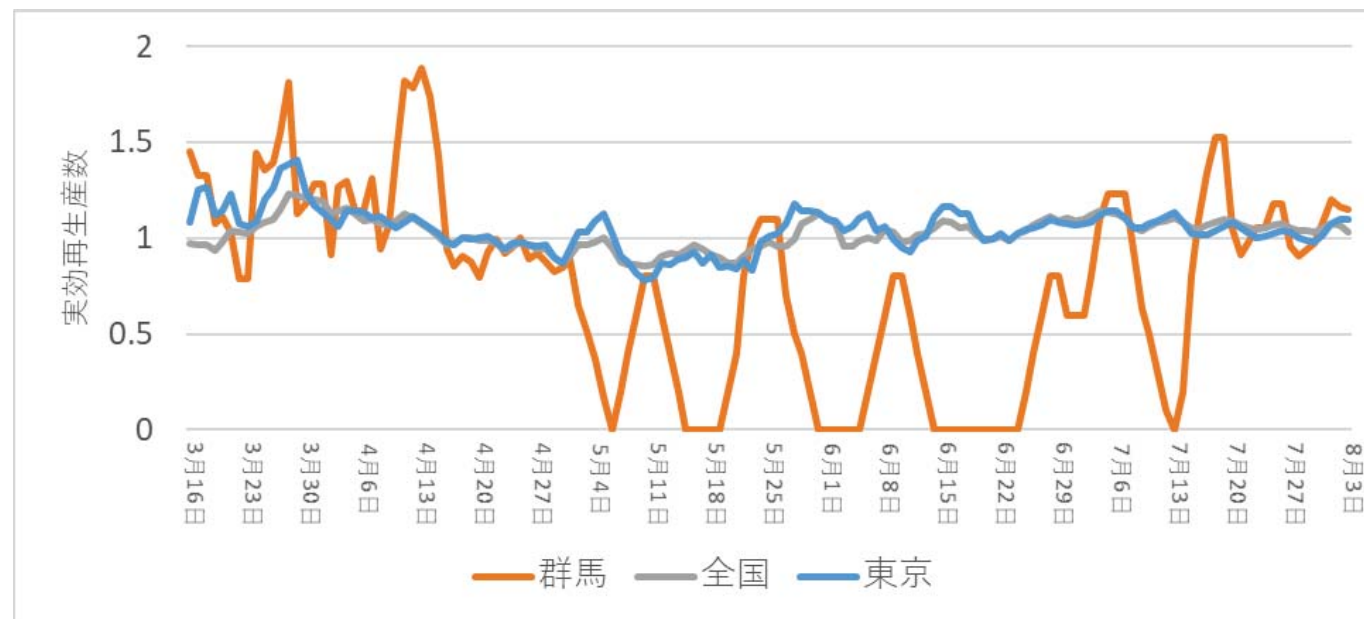
青：報告者数

橙：移動平均（5日）

破線：橙の近似曲線

I 流行のリアルタイム評価

- 東京と全国は6月中旬よりPCR陽性者等の報告数が増加し，実効再生産数の推定値は1を超え続けている（最新値：全国**1.03**，東京**1.10**）。
- 群馬県は1を下回っていたが，7月に報告例が続き1を上回った。ケース数が少ないため上下に変動しやすいが，最新値で**1.15**である。



まとめ

- 現在，全国的にPCR陽性者等の報告数が持続～微増しており，再び流行していると考えられる。
- 東京と全国では，実効再生産数は持続的に1を超えていた。群馬県でも，上下の変動はあるものの1を超えていた。東京都など他県からの持ち帰りのケースを予防し，持ち帰った場合は連鎖を断つ対策が必要である。
- 8月のお盆の帰省に対して慎重な対応をとることが望ましい。高齢者と若年者の接触など，異なる地域や世代を跨いだ感染伝播の発生を予防するべきである。
- PCR検査における年齢や重症例は，次回より月別の推定結果を報告する予定である。